

科目（講座名）	国語総合	4単位	必履修
教科書	新 精選 国語総合 現代文編（明治書院） 新 精選 国語総合 古典編（明治書院）		
副教材	◇解析古典文法・準拠ノート（桐原書店） ◇常用漢字ダブルクリア・新明説漢文・準拠ノート（尚文出版） ◇新訂 国語図説（京都書房） ◇現代文 解法のテクニック 1（啓隆社）		

学習の目標

現代文、古典の両分野について、高校国語の基礎的な学力を身につけ、2学年からの発展的な学習に対応できるようにする。

授業内容

現代文の分野では、評論文についての基礎的な読解力を身につけることを中心とする。小説、和歌、短歌などの文学的な分野については、基礎的な文学史的知識を身に付けさせることで興味を喚起し、心情表現について、グループワークで意見を交換し合う。古典の分野では、古典文法や漢文訓読の基礎的な知識を身につけ、自らの力で平易な古典の文章を読解する力を身につける。漢字についても、漢検準二級相当までを学ぶ。教えあいなどで、間違いを恐れず発表する雰囲気をつくる。

学習方法

現代文、表現の分野をG（2単位）、古文・漢文の分野をK（2単位）として授業を展開する。

評価の観点

関心・意欲・態度	授業に積極的に参加している。予習、復習、宿題などをきちんとやっている。授業の内容や作業を、ノートにきちんとまとめている。
話す・聞く能力	授業の中での発問に対して、積極的かつ的確に自分の考えを述べるができる。また他者の意見を聞いて、自分の考えと比較し、必要に応じて修正することができる。
書く能力	文章の要点を抜き出すだけでなく、的確に要約して文章としてまとめることができる。問いに対する答えを的確に文章化することができる。
読む能力	現代文：基礎的な語彙を身につけ、評論文などの論理的な文章を正確に理解できる。 小説などの文学的な文章で、心情を的確に理解できる。 古典：辞書を引くことで古語の語彙を増やし、文法的な知識を使って、平易な古典的な文章を理解できる。
知識・理解	漢字：漢字テストに意欲的に取り組む。 古典：用言の活用、助動詞の意味などを理解し、覚えている。

評価方法

学年末に、年間を通してのGの授業の評価とKの授業の評価を合算し、総合的に年間の評価を行う。授業中の小テスト、宿題なども平常点として評価に加える。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4 5 6 7	12 8 16 4	G： ・水の東西 ・「ふと」と「思わず」 ・羅生門 K： ・児のそら寝 ・竹取物語 「かぐや姫の誕生」 かぐや姫の嘆き	近代作家の作品に親しみ、基礎的な読解力を身につける。 評論文を読み、論理的な読解力を身につける。 古文に親しみ、文法の基本的な内容（仮名遣い、用言）を身につける。	積極的に学び、考えを発表する姿勢を身につける。 基礎的な読解の積み重ねを通して、的確な要約ができるようにする。 予習、復習の習慣を身につける。 辞書引きの習慣を身につける。 動詞、形容詞、形容動詞の活用を覚える。
2	9 10 11 12	28 42	G： ・マルジャーナの知恵 ・自由の優越＝困難 ・思想と向き合う ・青が消える ・サーカス ・短歌と俳句 K： ・漢文入門 ・故事成語 ・漢詩 ・徒然草 ・土佐日記	有名作家、詩人の作品を味わう。 小説における登場人物の心情等を理解し、味わう。 訓読の基本を身につける。 古典の文学的な作品を読解すると共に、読解力の核となる助動詞の基礎知識を身につける。 漢文の文学的な作品を読解する。	短歌や俳句の基礎的な決まり事を学習する。鑑賞文を書く。 登場人物の行動や心理を読み取りグループで発表する。 訓点についての基礎知識を身につけ、書き下し文を作れるようにする。 古典の基本的な語彙を身につける。 助動詞の意味について理解し、正しい現代語訳ができるようにする。 漢文の助字についての基本的な知識を身に付ける。

3	1	16	G :	<p>高度な評論の抽象的な表現に対する理解力を身につける。</p> <p>和歌の読解の基礎を身につける。軍記物語に親しむ。</p>	<p>文章を論理的に整理した上で理解していく力を身につける。</p> <p>「助動詞について、接続、活用まで含めた総合的な知識を身につけ、より文学的な文章を読解できる力を身につける。</p>
	2		<ul style="list-style-type: none"> ・世界中がハンバーガー ・〈普遍語〉とは何か？ 		
	3	24	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意味 <p>K :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌 ・平家物語 ・漢詩 		

科目（講座名）	世界史 A	2単位	選択必修
教科書 副教材	「明解 世界史A」（帝国書院）		

学習の目標

大航海時代から二つの世界大戦までの歴史を学ぶ。世界各国の歴史的事象を学ぶことで、現代につながる時事問題などに関連付けて考察させ、歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる人間としての資質を養う。また二つの世界大戦を学び、近現代において日本がどんな道のを歩んできたのかの歴史を理解し、世界の民族紛争などの背景を歴史の観点から理解し考察する力を身に付ける。

授業内容

1部 「世界の一体化と日本」 の1章から簡単に概略を説明したうえで
 1部3章「4節 東アジアの大変動」～
 2部「地球社会と日本」2章冷戦から地球社会へ を扱う

学習方法

講義形式で授業を進める。図表や補助資料・プリントを使う。

評価の観点

関心・意欲・態度	現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会、を形成していく当事者としての自覚を持って考える態度を身に付けることができる。
思考・判断	世界の一体化が進んだ世界各国の歴史から課題を見出し、現在の時事問題と関連付けて、多角的、多面的に考察することができる。
資料活用の技能	世界各国の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有効な情報を適切に選択することができる。
知識・理解	基本的な歴史的事象に関する知識を身につけ、近代社会が成立し発展する過程を理解することができる。

評価方法

①定期考査②授業内小テスト③平常点などを基に年間の成績を総合的に判断し評価を行う。

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	6	世界の一体化と日本 4節 東アジアの大変動	世界史の基本と概略を学ぶ	近代までの歴史の流れを大きく学習し、生徒に歴史観をイメージさせて近現代史へ入る。
	5	7		中国と日本の開国 アジアの工業化と日清戦争	国を閉ざしていた中国と日本がどのような経過で近代化を比較しながら学んでいく。
	6	6		東アジアの国際関係	東アジアを中心に欧州も含めて帝国主義から第一次世界大戦へ向かう流れを理解させる
	7	5			
2	9	6	2部地球社会と日本戦争と平和 「帝国主義と列強諸国の情勢」 「世界分割とアジア・アフリカ」 「二つの世界大戦とその影響」	・帝国主義 ・世界分割（アジア・アフリカ） ・第一次世界大戦 ・ヴェルサイユ体制	○第一次世界大戦へ至る流れを植民地分割などに触れながら進める。
	10	8		世界恐慌 ・ファシズム諸国の台頭 ・第二次世界大戦	○世界恐慌に対する世界各国の対応を理解する。 ○ファシズム諸国の台頭の過程と列強諸国の宥和政策の限界について考察し、第二次世界大戦に至る背景を理解する。
	11	8			○第二次世界大戦が引き起こした世界各国の甚大な被害を資料をもとに理解する。
	12	6			
3	1	6	冷戦から地球社会へ	・国際連合と冷戦の開始	○二つの大戦を経験した人類が国際連合を中心に新たな平和社会を模索する一方で冷戦が深まっていく様子を理解させる ○冷戦下での世界の流れと冷戦後の環境問題なども含めた世界規模の問題について考察する
	2	6		冷戦の展開と冷戦後の社会	
	3	6			

科目（講座名）	地理 A	2 単位	学校必修
教科書	高校生の地理 A（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）		
副教材	COMPLETE2021（帝国書院）		

学習の目標

世界の人々の生活・文化に関する地域的特色とその動向について、自然環境及び社会環境と関連づけて多面的に理解し、国際社会を生きる地理的見方や考え方を養う。

授業内容

1. 人々を取りまく環境について、地形・気候・産業を通して関連性を把握する。
2. 世界の諸地域の特色に関する諸事象の背景と問題点について理解する。
3. 地球的課題については、地域性に配慮しながら国際協力の観点で考察する。
4. 地域変容の諸事象について、防災など目的に合わせ分析する力を地図・統計作業により養う。

学習方法

1. 授業中は基本事項の理解に努め、疑問点は質問して解消しておく。
2. 作業課題は自ら調べて完成させ、地理的な技能を体得する機会として生かす。
3. 新聞・ニュース・HP等から最新の地理情報を収集し、発展的理解に努める。

評価の観点

関心・意欲・態度	地理に対して関心を持ち、意欲的な態度で課題意識を高めることができたか。また、新たに探究したい課題を発見できたか。
思考・判断	地理的事象から課題を見だし、地域性を踏まえた多角的な見方・考え方を身に付いたか。
技能・表現	地図や統計など諸資料からの情報選択や活用を通して、地理的事象を分析することができたか。
知識・理解	地理的な諸課題についての基本事項や多面的・多角的な視点をもって課題に対して理解を行い、知識が身に付いたか。

評価方法

地理学習の基本をおさえ、地理的な見方や考え方を身につけることができたか。
 下記の4つの観点から、総合的に評価を定める。

1. 定期考査
2. 授業中の課題
3. 長期休業中の課題

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点	
1	4	6	1-1. 地球儀や地 図から捉え る現代社会	自宅学習に伴うプリント での学習 ○地球上の位置と国家 ・地軸による季節変化 ・時差 ・様々な地図の活用と地図 の4条件	<ul style="list-style-type: none"> ・地球儀上の位置や時差の考え方を理解する。 ・地図の特性や読図について、基本事項を理解する。 ・地域統合の成因と諸地域の特徴を把握し、資料を基に様々な地域のつながりについて理解する。 ・多様な自然環境について、成因と特徴及び人間生活について理解する。 	
	5			1-2. グローバル 化が進み現 代社会		○結びつきを進める現代 世界
	6			2-1・2 人々の生活 と地形		○人々の生活と地形 ・大地形と小地形 ・地形図の読図（防災） ・地域調査
2	9	5	2-3・4・5. 人間生活を 取り巻く環 境	○人々の生活と気候 ・生活と気候のかかわり ・熱帯・乾燥帯・温帯・亜 寒帯・寒帯の気候と人々 の生活。	<ul style="list-style-type: none"> ・大気の大循環のメカニズムを基に、気候に対する理解を深める。 ・ケッペンの気候区分を理解し、気候帯の特徴を把握する。 ・自然と人間生活との関わりについて理解する。 ・自然環境と社会環境（宗教・政治・経済）との関わりを考察する。 ・諸地域の地理的位置や諸事情について理解する。 	
	10			9		○人々の生活と産業 ・世界の農業 ・世界の工業
	11			8		3. 世界の諸地 域の生活・ 文化
3	1	5	3. 世界の諸地 域の生活・ 文化	○南アジアの生活・文化 ○東アジアの生活・文化 ○西アジア・アフリカの生 活・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境や多様な文化の形成の背景を地誌的にとらえる視点や方法を身に付ける。 ・「地球的課題と私たち」については「世界の諸地域の生活・文化」の中で考察する。 	
	2			6		1年間のまとめ
	3			5		

科目（講座名）	数学 I	3 単位	必履修
教科書	改訂版 高等学校 数学 I （数研出版）		
副教材	4 プロセス 数学 I + A （数研出版）		

学習の目標

- ・ 数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ・ 数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。
- ・ 様々な事象を数学的に考察し処理する能力を身につけ、数学的思考力の育成を図る。
- ・ 数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、的確に応用できる能力を身につける。

授業内容

- 第1章 (1) 式の計算 (2) 実数 (3) 1次不等式
 第2章 (1) 集合と命題
 第3章 (1) 2次関数とグラフ (2) 2次関数の値の変化 (3) 2次方程式と2次不等式
 第4章 (1) 三角比 (2) 三角形への応用
 第5章 (1) データの分析

学習方法

- ・ 「例」の解説および「練習」の学習によって理解を深める。
- ・ 各節の終わりにある「問題」および各章のおわりにある「章末問題A・B」で問題演習を行い、学習事項を確認する。特進クラスは、授業のスピードを上げ、3学期前半までに教科書内容を終わらせ、3学期後半に主要単元の復習を行い、応用力を伸ばす。

評価の観点

関心・意欲・態度	数学的活動を通して、数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。
数学的な見方・考え方	数学的活動を通して、数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。
表現・処理	数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。
知識・理解	数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。

評価方法

1. 年5回の定期考査、宿題テスト
2. ノート・レポートなどの提出物
3. 出席状況、学習態度など、年間の成績を総合的に判断して評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点	
1	4	39	第1章 数と式	第1節 式の計算 1. 整式の加法と減法 2. 整式の乗法 3. 因数分解	文字式の扱いについて理解を深めると共に、等号、カッコ、指数などの記号を論理的に正しく使用することに心掛ける。 実数の構造は、具体的な例を挙げながら丁寧に指導する。平方根を含む式の計算は、分母の有理化の方法を確実に理解させるよう心掛ける。 不等式についてはその性質などを丁寧に指導する。 集合と命題においては、簡単な例で慣れることを優先し、記号による取り扱いなどを丁寧に指導する。	
	5			第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式		論理的な思考力を伸ばすとともに、それらを命題などの考察に生かすことができるようにする。
	6			第2章 集合と命題		第1節 集合と命題 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明
2	7	42	第3章 2次関数	第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定 第3節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7. 2次不等式	角についての理解を深め、三角比の定義を確実に理解させるよう心掛ける。具体的な例題で角度や長さなどを求める方法を指導する。 正弦定理・余弦定理を学習し、三角形の解法や測量問題などに応用できるように指導する。また、三角比の有用性を認識させるよう心掛ける。	
	9			第4章 図形と計量		第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用
	10					7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用
11						
	12					

	1	24	第5章 データの分析	<ol style="list-style-type: none"> 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. データの相関 	はじめは、中学で既習の代表値から取り扱う。そのあと範囲、四分位範囲、標準偏差と考えそれぞれの散らばりの指標の長所、短所について比較する。
	2		総合演習	<p>2次関数の応用 三角比の応用 総合問題 など</p>	数学 I における応用力をつけるための問題演習を行う。
	3				

科目（講座名）	数学A	2単位	学校必履修
教科書	改訂版 高等学校 数学A（数研出版）		
副教材	4プロセス 数学I+A（数研出版）		

学習の目標

- ・数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
- ・数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。
- ・様々な事象を数学的に考察し処理する能力を身につけ、数学的思考力の育成を図る。
- ・数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、的確に応用できる能力を身につける。

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1章 | (1) 集合の要素の個数 (2) 場合の数 (3) 順列 (4) 組合せ
(5) 事象と確率 (6) 確率の基本性質 (7) 独立な思考と確率
(8) 条件付き確率 |
| 第2章 | (1) 三角形の辺の比 (2) 三角形の外心・内心・重心
(3) チェバ・メネラウスの定理 (4) 円に内接する四角形 (5) 円と直線
(6) 2つの円 (7) 作図 (8) 直線と平面 (9) 空間図形と多面体 |
| 第3章 | (1) 約数と倍数 (2) 最大公約数・最小公倍数 (3) 整数の割り算と商・余り
(4) ユークリッドの互除法 (5) 1次不定方程式 (6) 分数と小数 (7) n進法 |

学習方法

- ・「例」の解説および「練習」の学習によって理解を深める。
- ・各節の終わりにある「問題」および各章のおわりにある「章末問題A・B」で問題演習を行い、学習事項を確認する。

評価の観点

関心・意欲・態度	数学的活動を通して、場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質における考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。
数学的な見方・考え方	数学的活動を通して、場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。
表現・処理	場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。
知識・理解	場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。

評価方法

1. 年5回の定期考査、宿題テスト
 2. ノート・レポートなどの提出物
 3. 出席状況、学習態度など、年間の成績
- を総合的に判断して評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	26	第1章 場合の数と確率	第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ	樹形図、辞書式の順など分類整理の手段は、数学的にも基本的な考え方と態度であるので、確実に身につけさせる。 確率の計算については、考え方が難しく複雑な問題もあるが、代表的な問題で一般的な手順を理解させることを目標とする。また、具体的な問題を取り扱うよう心がける。
	5			第2節 確率 1. 事象と確率 2. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率	
	6				
	7		第2章 図形の性質	第1節 平面図形 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心・内心・重心	
2	9	28	第3章 整数の性質	3. チェバ・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と接線 6. 2つの円 7. 作図	中学で学習した公式の確認をしつつ基本的な考え方を身に付けさせる。また、指導に当たっては、数学的な推論の仕方についての理解を深めることも大切であるが、図形がもっている性質の整った美しさを味わえるような配慮も必要である。 空間における2直線の位置関係、直線と平面の位置関係、2平面の位置関係について丁寧に指導する。 約数と倍数についての理解を深め、約数と倍数の定義を理解させるよう心掛ける。具体的な例題で最大公約数や最小公倍数などを求める方法を指導する。 具体的な例題でユークリッドの互除法を利用し、2つの数を、整数の割り算と余りから最大公約数を求める方法を指導する。
	10			第2節 空間図形 8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体	
				第1節 約数と倍数 1. 約数と倍数 2. 最大公約数・最小公倍数 3. 整数の割り算と商・余り	
	11			第2節 ユークリッドの互除法 4. ユークリッドの互除法 5. 1次不定方程式	
12		第3節 整数の性質の活用 6. 分数と小数 7. n進法	総合演習		
		確率・整数の応用総合問題		具体的な例題でn進法について基本的な考え方や表し方を丁寧に指	

3	1 2 3	16			導する。 数学Aにおける応用力をつけるための問題演習を行う。
---	-------------	----	--	--	---------------------------------------